

アングラ・安保・フーテン・サブカル……日本のアンダーグラウンドをひそかに牽引した青林堂の陰の編集者・高野が語る

古い本棚

第29回

あの本、この本

高野慎三

戦国城跡

一九五〇年代の終わりに武蔵野を幾度も訪ねていたところ、東京にも戦国城跡が意外と多いことに気づいた。ハイキングを兼ねて訪ねてみた。調布深大寺門前の深大寺城跡が偶然にも発掘中だった。発掘の指導者だった青木一美氏は、それ以前に練馬の石神井城跡の発掘も担当されていた。当時、戦国城跡の研究者は少なかった。石神井や深大寺の発掘報告書はどれも手書きのガリ版刷りで、糸とじだ。これらの発掘が戦国城跡研究の端緒のように思えた。

やがて埼玉にまで足を延ばした。日本最初の天守閣が築かれたと目される琵琶湖畔の信長の安土城跡をも訪ねた。安土城は戦国期に属するが、それ以外の現存する天守閣はいずれも江戸期以降のものらしく、時代小説、時代劇映画、マンガに登場する天守閣はいわば虚構である。戦乱

に明け暮れた時代に権威の象徴といえる天守閣はまだ出現していない。黒澤明の「乱」も白土三平の「影丸伝・忍者武芸帖」も事実とかけ離れている。戦国時代の考証が未発達ゆえ映画もマンガもテレビも過誤を進めた。

井伏鱒二の小説「武州鉢形城」は一五九〇年に秀吉軍との戦乱を扱っていた。井伏自身が現地を訪ねているので、それに倣い鉢形城跡に向かった。荒川の断崖絶壁に築かれた城内の深い空堀と高い土塁とに圧倒された。戦国期に築かれた山城は自然を利用して防御を固めた。ふと「野戦攻城」という言葉を思い出し、鬱蒼とした雑木林に囲まれた険しい山城に魅了された。

案内書は少なかった。「武蔵風土記稿」など江戸時代の地誌を参考に道なき道を踏査した。石神井や深大寺だけではなく都区内の随所に戦国城跡が残っていた。八王子城跡を訪ねたのは六十数年前だ。山の頂上近くの狭い平坦地が本丸である。北条氏照が城主だった。豊臣軍に攻められ鉢形と同じ年に落城。本丸跡から草木が茂る土壁の斜面に陶器片や焼けた鉄片などが散乱していた。落城したときのままだ。そのときからだいぶたって城跡全体が観光目的に整地された。戦国時代の荒れ果てた野づら積み石垣も見栄えのいい姿に替えられたと伝え聞く。もう再訪することはないだろう。

●「貸本屋とマンガの棚」(筑摩書房)発売中



小室栄一「中世城郭の研究」(1965)人物往来社



「城9・武州松山城古図」(1962)古城研究会



「土4号・深大寺城跡発掘特集」(1960)土の会



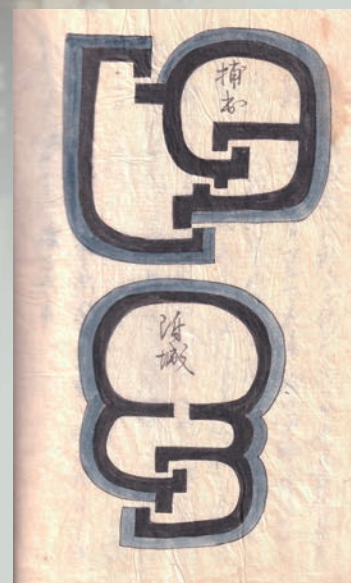
八王子城跡の遺物・李朝染付片、鉄片など(1960)



「土2号」発掘調査報告実測図(1958)土の会



「土2号・石神井城跡発掘記念」(1958)土の会



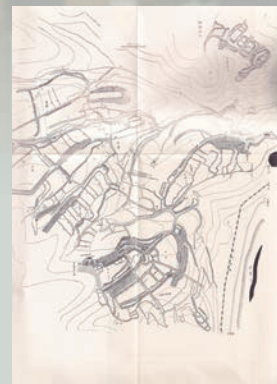
「甲陽軍鑑・縄張り図面」写し(1803)和綴じ本



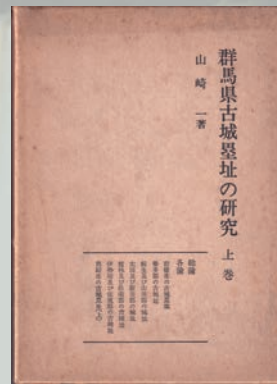
「中世の城館跡・入間、比企」(1996)埼玉県立歴史資料館



「国指定遺跡・菅谷館跡」(1989)埼玉県立歴史資料館



山崎「群馬県古城址の研究・下」岩櫃城跡図(1972)群馬県文化事業振興会



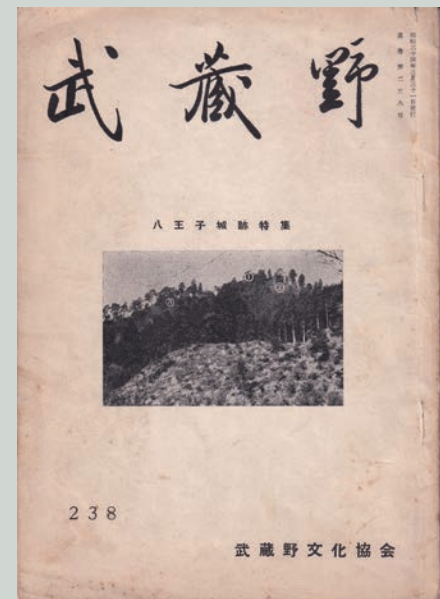
山崎「群馬県古城址の研究・上」(1971)群馬県文化事業振興会



「高月・滝山城跡を探る」(1959)京王多摩文化会



高月城跡の古図、同書より



「武蔵野・八王子城跡特集」(1959)武蔵野文化協会



八王子城跡石垣



深大寺城跡実測図



深大寺城本丸掘立柱跡



「武蔵嵐山・国指定史跡・杉山城跡」埼玉県立嵐山史跡の博物館